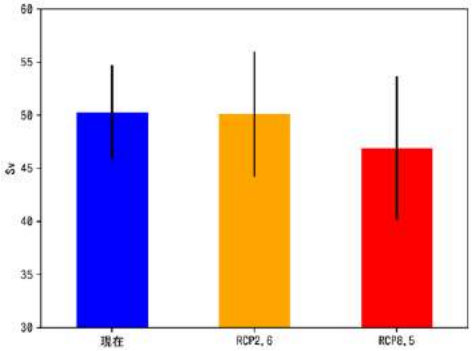
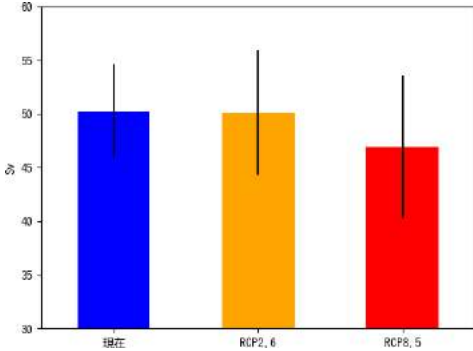
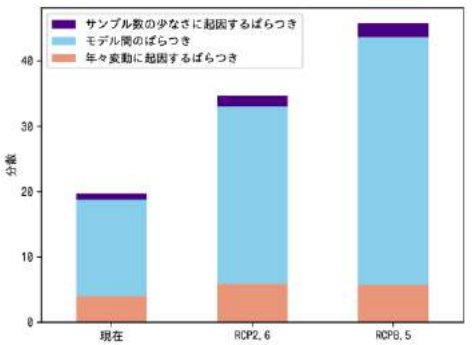
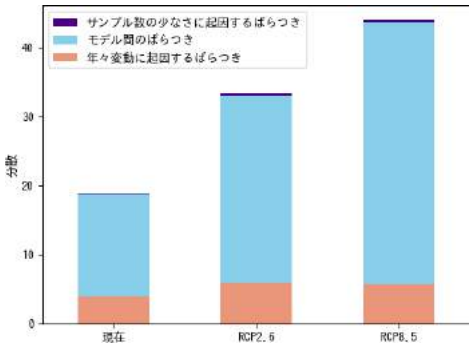
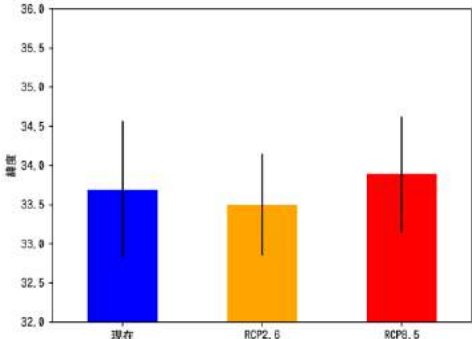
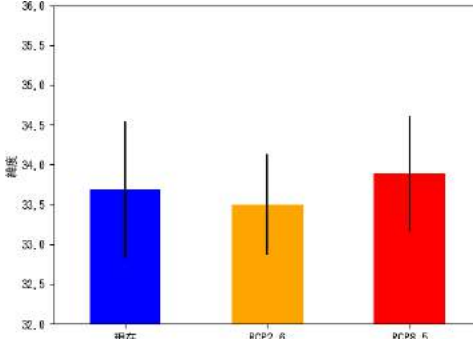
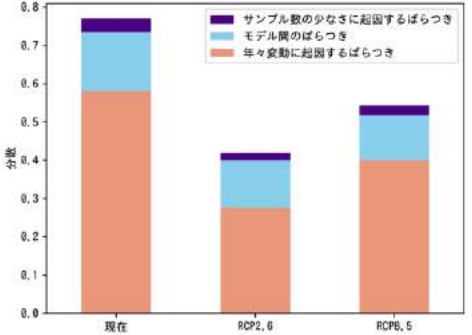
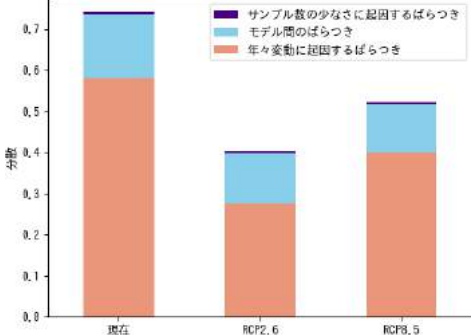


『日本の気候変動 2020 —大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—』（詳細版）正誤表

修正日	対象	正	誤
2021年 2月 1日	第 10.2.2 項 (p. 155)	21 世紀末の予測では、…日本沿岸の平均海面水位の上昇量は、2°C上昇シナリオ (RCP2.6) では、領域 I で 0.38 m (0.22~0.55 m)、領域 II で 0.38 m (0.21~0.55 m)、領域 III で 0.39 m (0.22~0.56 m)、領域 IV で 0.39 m (0.23~ <u>0.56</u> m) と予測される。	21 世紀末の予測では、…日本沿岸の平均海面水位の上昇量は、2°C上昇シナリオ (RCP2.6) では、領域 I で 0.38 m (0.22~0.55 m)、領域 II で 0.38 m (0.21~0.55 m)、領域 III で 0.39 m (0.22~0.56 m)、領域 IV で 0.39 m (0.23~ <u>0.55</u> m) と予測される。
	第 10.2.2 項 (p. 156)	近未来 (2031~2050 年平均) の予測においても、…2°C 上昇シナリオ (RCP2.6) では、領域 I で <u>0.16</u> m (<u>0.10</u> ~ <u>0.23</u> m)、領域 II で <u>0.16</u> m (0.08~ <u>0.23</u> m)、領域 III で <u>0.17</u> m (<u>0.08</u> ~ <u>0.26</u> m)、領域 IV で <u>0.17</u> m (<u>0.10</u> ~ <u>0.25</u> m)、全平均で <u>0.17</u> m (<u>0.10</u> ~ <u>0.24</u> m) と予測される。4°C上昇シナリオ (RCP8.5) では、領域 I で 0.19 m (0.11~ <u>0.26</u> m)、領域 II で <u>0.19</u> m (0.10~ <u>0.28</u> m)、領域 III で <u>0.19</u> m (<u>0.08</u> ~ <u>0.30</u> m)、領域 IV で <u>0.19</u> m (<u>0.11</u> ~ <u>0.28</u> m)、全平均で <u>0.19</u> m (<u>0.11</u> ~ <u>0.27</u> m) と予測される。	近未来 (2031~2050 年平均) の予測においても、…2°C 上昇シナリオ (RCP2.6) では、領域 I で <u>0.15</u> m (<u>0.09</u> ~ <u>0.22</u> m)、領域 II で <u>0.15</u> m (0.08~ <u>0.22</u> m)、領域 III で <u>0.16</u> m (<u>0.07</u> ~ <u>0.25</u> m)、領域 IV で <u>0.16</u> m (<u>0.09</u> ~ <u>0.24</u> m)、全平均で <u>0.16</u> m (<u>0.09</u> ~ <u>0.23</u> m) と予測される。4°C上昇シナリオ (RCP8.5) では、領域 I で 0.19 m (0.11~ <u>0.28</u> m)、領域 II で <u>0.20</u> m (0.10~ <u>0.29</u> m)、領域 III で <u>0.23</u> m (<u>0.11</u> ~ <u>0.35</u> m)、領域 IV で <u>0.22</u> m (<u>0.13</u> ~ <u>0.32</u> m)、全平均で <u>0.21</u> m (<u>0.12</u> ~ <u>0.30</u> m) と予測される。

修正日	対象	正	誤
2021年 10月 21日	第14.2.2項 (p.190)	<p>図14.2.1 黒潮流量の21世紀末の将来予測結果 (a) 黒潮流量の将来予測値 (Sv)</p> 	<p>図14.2.1 黒潮流量の21世紀末の将来予測結果 (a) 黒潮流量の将来予測値 (Sv)</p> 
		<p>図14.2.1 黒潮流量の21世紀末の将来予測結果 (b) 黒潮流量予測の不確実性</p> 	<p>図14.2.1 黒潮流量の21世紀末の将来予測結果 (b) 黒潮流量予測の不確実性</p> 

修正日	対象	正	誤																																						
2021年 10月 21日	第14.2.2項 (p. 190)	<p>図 14.2.2 黒潮続流緯度の 21 世紀末の将来予測結果 (a) 黒潮続流緯度の将来予測値</p>  <table border="1"> <caption>Figure 14.2.2(a) - Predicted Kuroshio Extension Latitude</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>緯度 (平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>RCP2.6</td> <td>33.5</td> </tr> <tr> <td>RCP8.5</td> <td>33.9</td> </tr> </tbody> </table>	シナリオ	緯度 (平均)	現在	33.7	RCP2.6	33.5	RCP8.5	33.9	<p>図 14.2.2 黒潮続流緯度の 21 世紀末の将来予測結果 (a) 黒潮続流緯度の将来予測値</p>  <table border="1"> <caption>Figure 14.2.2(a) - Predicted Kuroshio Extension Latitude</caption> <thead> <tr> <th>シナリオ</th> <th>緯度 (平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>RCP2.6</td> <td>33.5</td> </tr> <tr> <td>RCP8.5</td> <td>33.9</td> </tr> </tbody> </table>	シナリオ	緯度 (平均)	現在	33.7	RCP2.6	33.5	RCP8.5	33.9																						
		シナリオ	緯度 (平均)																																						
現在	33.7																																								
RCP2.6	33.5																																								
RCP8.5	33.9																																								
シナリオ	緯度 (平均)																																								
現在	33.7																																								
RCP2.6	33.5																																								
RCP8.5	33.9																																								
<p>図 14.2.2 黒潮続流緯度の 21 世紀末の将来予測結果 (b) 黒潮続流緯度予測の不確実性</p>  <table border="1"> <caption>Figure 14.2.2(b) - Uncertainty Components (Present)</caption> <thead> <tr> <th>成分</th> <th>現在</th> <th>RCP2.6</th> <th>RCP8.5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年々変動に起因するばらつき</td> <td>0.58</td> <td>0.28</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>モデル間のばらつき</td> <td>0.15</td> <td>0.12</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>サンプル数の少なさに起因するばらつき</td> <td>0.02</td> <td>0.02</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0.75</td> <td>0.42</td> <td>0.57</td> </tr> </tbody> </table>	成分	現在	RCP2.6	RCP8.5	年々変動に起因するばらつき	0.58	0.28	0.40	モデル間のばらつき	0.15	0.12	0.15	サンプル数の少なさに起因するばらつき	0.02	0.02	0.02	合計	0.75	0.42	0.57	<p>図 14.2.2 黒潮続流緯度の 21 世紀末の将来予測結果 (b) 黒潮続流緯度予測の不確実性</p>  <table border="1"> <caption>Figure 14.2.2(b) - Uncertainty Components (Future)</caption> <thead> <tr> <th>成分</th> <th>現在</th> <th>RCP2.6</th> <th>RCP8.5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年々変動に起因するばらつき</td> <td>0.58</td> <td>0.28</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>モデル間のばらつき</td> <td>0.15</td> <td>0.12</td> <td>0.15</td> </tr> <tr> <td>サンプル数の少なさに起因するばらつき</td> <td>0.02</td> <td>0.02</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0.75</td> <td>0.42</td> <td>0.57</td> </tr> </tbody> </table>	成分	現在	RCP2.6	RCP8.5	年々変動に起因するばらつき	0.58	0.28	0.40	モデル間のばらつき	0.15	0.12	0.15	サンプル数の少なさに起因するばらつき	0.02	0.02	0.02	合計	0.75	0.42	0.57
成分	現在	RCP2.6	RCP8.5																																						
年々変動に起因するばらつき	0.58	0.28	0.40																																						
モデル間のばらつき	0.15	0.12	0.15																																						
サンプル数の少なさに起因するばらつき	0.02	0.02	0.02																																						
合計	0.75	0.42	0.57																																						
成分	現在	RCP2.6	RCP8.5																																						
年々変動に起因するばらつき	0.58	0.28	0.40																																						
モデル間のばらつき	0.15	0.12	0.15																																						
サンプル数の少なさに起因するばらつき	0.02	0.02	0.02																																						
合計	0.75	0.42	0.57																																						

2022年 3月 11日	付録 1.4.1 項 (p. 224)	<p>(1) 気温の再現性</p> <p>地域気候モデルの結果に見られるバイアスは以下のとおり。これらのバイアスは、バイアス補正によりおおむね解消される。</p>	<p>(1) 気温の再現性</p> <p>地域気候モデルの結果に見られるバイアスは以下のとおり。これらのバイアスは、バイアス補正によりおおむね解消される。</p>																		
		<table border="1"> <tr> <td>平均気温</td> <td><u>冬の北日本及び東日本に負のバイアスがある。夏の北日本では正のバイアスがある。</u></td> </tr> <tr> <td>最高気温</td> <td><u>年平均、秋及び冬の全地域、春の東日本太平洋側及び西日本、夏の西日本太平洋側及び沖縄・奄美で負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に、冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい</u></td> </tr> <tr> <td>最低気温</td> <td><u>年平均及び各季節（冬を除く）で、ほぼ全ての地域に正のバイアスがある。冬の北日本日本海側及び東日本日本海側では負のバイアスがある。</u></td> </tr> <tr> <td>猛暑日日数</td> <td>各季節・各地域において明確なバイアスはない</td> </tr> <tr> <td>真夏日日数</td> <td>夏は<u>北日本を除き全国的に負のバイアス</u>、秋は東日本太平洋側、<u>西日本太平洋側</u>、沖縄・奄美で負のバイアスがある。</td> </tr> </table>	平均気温	<u>冬の北日本及び東日本に負のバイアスがある。夏の北日本では正のバイアスがある。</u>	最高気温	<u>年平均、秋及び冬の全地域、春の東日本太平洋側及び西日本、夏の西日本太平洋側及び沖縄・奄美で負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に、冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい</u>	最低気温	<u>年平均及び各季節（冬を除く）で、ほぼ全ての地域に正のバイアスがある。冬の北日本日本海側及び東日本日本海側では負のバイアスがある。</u>	猛暑日日数	各季節・各地域において明確なバイアスはない	真夏日日数	夏は <u>北日本を除き全国的に負のバイアス</u> 、秋は東日本太平洋側、 <u>西日本太平洋側</u> 、沖縄・奄美で負のバイアスがある。	<table border="1"> <tr> <td>平均気温</td> <td><u>年平均では、各地域で負のバイアスがある。季節別に見ても、夏を除き全国的に負のバイアスがあり、特に冬の負のバイアスが大きい。</u></td> </tr> <tr> <td>最高気温</td> <td><u>年平均及び全季節でほぼ全ての地域に負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。</u></td> </tr> <tr> <td>最低気温</td> <td><u>年平均では、全国的に明確なバイアスはない。季節別に見ると、夏の北日本で正のバイアス、冬の北日本、東日本で負のバイアスがある。</u></td> </tr> <tr> <td>猛暑日日数</td> <td>各季節・各地域において明確なバイアスはない。</td> </tr> <tr> <td>真夏日日数</td> <td>夏は<u>全国的に負のバイアス</u>、秋は東日本太平洋側、<u>西日本</u>、沖縄・奄美で負のバイアスがある。</td> </tr> </table>	平均気温	<u>年平均では、各地域で負のバイアスがある。季節別に見ても、夏を除き全国的に負のバイアスがあり、特に冬の負のバイアスが大きい。</u>	最高気温	<u>年平均及び全季節でほぼ全ての地域に負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。</u>	最低気温	<u>年平均では、全国的に明確なバイアスはない。季節別に見ると、夏の北日本で正のバイアス、冬の北日本、東日本で負のバイアスがある。</u>	猛暑日日数	各季節・各地域において明確なバイアスはない。
平均気温	<u>冬の北日本及び東日本に負のバイアスがある。夏の北日本では正のバイアスがある。</u>																				
最高気温	<u>年平均、秋及び冬の全地域、春の東日本太平洋側及び西日本、夏の西日本太平洋側及び沖縄・奄美で負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に、冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい</u>																				
最低気温	<u>年平均及び各季節（冬を除く）で、ほぼ全ての地域に正のバイアスがある。冬の北日本日本海側及び東日本日本海側では負のバイアスがある。</u>																				
猛暑日日数	各季節・各地域において明確なバイアスはない																				
真夏日日数	夏は <u>北日本を除き全国的に負のバイアス</u> 、秋は東日本太平洋側、 <u>西日本太平洋側</u> 、沖縄・奄美で負のバイアスがある。																				
平均気温	<u>年平均では、各地域で負のバイアスがある。季節別に見ても、夏を除き全国的に負のバイアスがあり、特に冬の負のバイアスが大きい。</u>																				
最高気温	<u>年平均及び全季節でほぼ全ての地域に負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。</u>																				
最低気温	<u>年平均では、全国的に明確なバイアスはない。季節別に見ると、夏の北日本で正のバイアス、冬の北日本、東日本で負のバイアスがある。</u>																				
猛暑日日数	各季節・各地域において明確なバイアスはない。																				
真夏日日数	夏は <u>全国的に負のバイアス</u> 、秋は東日本太平洋側、 <u>西日本</u> 、沖縄・奄美で負のバイアスがある。																				

修正日	対象	正		誤	
		夏日日数	<u>春の東日本と西日本、秋及び冬の沖縄・奄美で負のバイアスがある。</u>	夏日日数	<u>春から秋にかけておおむね全国的に負のバイアスがある。</u>
		熱帯夜日数	<u>春の沖縄・奄美や、夏及び秋のほぼ全ての地域に正のバイアスがある。</u>	熱帯夜日数	春の沖縄・奄美 <u>で</u> 正のバイアスがある。
		冬日日数	冬の <u>北日本日本海側</u> で正のバイアスがある。 <u>春の北日本太平洋側、秋の西日本で負のバイアスがある。</u>	冬日日数	冬の <u>北日本、東日本日本海側</u> で正のバイアスがある。
		真冬日日数	<u>おおむね全国的に</u> 正のバイアスがあり、北・東日本で大きくなっている。	真冬日日数	<u>全国的に</u> 正のバイアスがあり、北日本及び東日本で大きい。